

令和3年第3回（6月）瀬戸内市議会定例会

教育委員会行政報告

市長の行政報告に引き続き、教育委員会から行政報告をいたします。

新型コロナウイルス感染症は、教育現場にも影響を与えており、岡山県内に緊急事態宣言が出されてからは、予定していた行事については延期又は中止せざるを得ない状況となりました。これからもより一層の感染防止対策を進めることと併せ、感染者に対する誹謗中傷、差別、いじめは許されない行為であることを子どもたちに指導し、人権の大切さについて考え、人権を守る教育を進めていきます。

それでは、主な取組についてご報告させていただきます。

○ 学力・学習状況調査の実施について

5月27日に国、県の学力調査が行われ、小学3年生から中学1年生までと中学3年生が、国語、算数・数学を、中学2年生が国語、数学、英語を受検しました。これに併せて、市独自の調査として中学1年生が理科、社会も受検しました。

また、小学5年生から中学3年生までは、学習状況調査も同時に行い、「自分にはよいところがある」「自分で計画を立てて勉強していた」などの質問や、昨年度の休校中の状況についてアンケート調査をしました。

学力調査、学習状況調査ともに、結果は8月下旬に学校に返ってくる予定で、結果を分析して今後の授業改善や指導に生かしていきます。

○図書館について

市民図書館もみわ広場は、6月1日に開館5周年を迎えました。

令和2年度の利用状況は、新型コロナウイルスの感染拡大により、4月21日から5月20日まで約1か月間臨時休館したことなどが影響し、来館者数は、前年度比24.1%減の13万3,634人で、1日平均499人となりました。特に4月が45.3%減、5月が70.0%減と大きく落ち込んでおり、再開後も、行事の中止や参加定員の削減などで、各月とも数パーセントから15%程度減少しています。

また、図書館全体での個人貸出冊数は、前年度比1.2%減の31万5,455冊となりましたが、市民図書館での貸出冊数は、前年度比2.6%の増加となっています。これは、自宅で過ごす時間が増えたことで、貸出利用の需要が高まったと考えられ、コロナ禍にあっても市民が必要な情報や知識を得られ、また、自宅で充実した時間を過ごすことができるよう、今後もニーズにこたえる図書館のサービスを続けていきます。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

令和3年6月22日

瀬戸内市教育委員会

教育長 東南 信行